

6月定例会 市長より議会へ 行政報告



門脇禎夫市長

平成24年第3回香美市議会6月定例会が6月13日に開会されました。定例会初日には議長・各特別委員長の報告、また門脇市長より各課関連の行政報告がありました。行政報告から抜粋して掲載します。

5月28日、南国市オフィスパークにおいて、南国・香南・香美租税債権管理機構の事務所開きが行われた。同機構は、県から2名、香南、香美市と大豊町から各1名の職員が出向し、総員5名で業務を行う。

4月5日、物部町大橋に開設される特別養護老人ホームの起工式が、建設地で行われた。当施設は、社会福祉法人日ノ御子会が運営し、名称は特別養護老人ホーム「荘生郷（にろうこう）木造2階建て耐火耐震構造となっており、入居者定員は30名（短期入所1名含む）市民が優先して入居できる地域密着型施設となる。

林業事業の間伐等について、昨年度から始まった新補助制度により従来の切捨て間伐は補助対象から除外されたが、新制度に沿った計画的な森林施策が実施できる体制に移行さ

南国・香南・香美 租税管理機構始動

総収集量が8026トンの昨年度と比較すると146トンの減となった。減量上位は新聞紙が70トン、雑誌が68トン、可燃ゴミが41トンの減となっている。今後も、ゴミ減量と分別リサイクルを推進していく。

ゴミ収集量 昨年より 146トンの減

100件の債務を移管する予定で、今後は租税債権管理機構と連携し、より一層公平な税の徴収に努める。

名称は「特別養護 老人ホーム荘生郷 （にろうこう）」

緑の募金、間伐、 鳥獣被害対策など

昨年度の緑の募金活動により、総額174万9735円を募り高知県森と緑の会へ送金した。

特に、シカの捕獲頭数を平成22年度と比較すると222頭増加しており、統計開始以来最多の捕獲数となっている。



工事が進む特別養護老人ホーム「荘生郷」

しかし、樹木や農作物への被害は今なお深刻な状況であることから、徳島県域を含む剣山系の国有林を中心とした広域的な取組みを、国（農林水産省・環境省）に要望している。

生活保護の状況は

前年度と比較すると、被保護人員8人、被保護世帯10世帯が増えている。

相談延件数は6件減っているが、申請件数8件、保護開始件数19件はそれぞれ増えている。

被保護世帯の内訳では、「高齢者世帯」が現状のほぼ半数を占めているが、失業を理由に保護受給となる世帯を含む「その他世帯」の占める割合は年々増加。新たに保護を開始する世帯の50%以上が「その他世帯」となっている。

中山間地域 直接支払制度 102協定

農業者戸別所得補償

制度について、J A土佐香美から産業振興課へ出向している職員4名が業務を行っており、各地域の申請受付は5月末に終了した。

中山間地域等直接支払い制度は、昨年度に引続き102協定組織が、耕作放棄地の発生防止や農業生産活動の取組みを継続して行っている。

村づくり交付金事業により、昨年度実施していた農業用排水路整備工事6件と農地5件、農業施設1件の災害復旧工事は3月末に完成している。

災害復旧・道路補修

災害復旧事業は、繰越による市道拓開舞線及び河川災害他2件を6月中に完了予定だ。

緊急を要する道路補修工事と、がけくずれ住家防災対策事業4件



全面開通が待たれる高知山田線

は、早期着工を目指して準備を進めている。県管施工による山田バイパスについて、北本町から佐野地区へ抜ける区間は本年度詳細設計等を行う予定であり、伏原地区については信号機の整備が完了する8月頃に供用開始を予定している。

高知山田線の土佐山田工区では、供用開始に向けた周辺整備のため、楠目1号線改良工事に着手している。都市計画道路の新町西町線は、関係機関と事前調整を行い、都市計画を変更するための

地籍調査の進捗

測量業務委託の準備を進めている。

物部町舞川及び仙頭の一部、香北町河野及び川ノ内の各一部、土佐山田町西又の一部において、調査準備を計画とおり進めている。

簡易水道

繰越施工していた五王堂簡易水道取水堰改

良工事は5月末に完成し、山田堰簡易水道影山地区配水施設移設工事は、6月15日に完成予定だ。

また、影山地区旧送配水施設撤去工事は着手しており、9月末に完了予定である。

少年剣道錬成大会

「第7回香美市体力づくり少年剣道錬成大会」が4月29日、香北体育センターで開催された。

香美市内外の学校や団体から総勢65チーム、345人の選手が参加し、小学生・中学生・高校生の3部門で熱戦を繰り広げた。



本市へ高規格救急 自動車が増える

全国共済農業協同組合連合会から高規格救急自動車が増え、平成24年6月7日、消防本部において受納式を行い同連合会に感謝状を贈呈した。



高規格救急自動車受納式